

4. 「第7回地域共生社会推進全国サミット in かが」について



加賀市市民健康部介護福祉課

令和8年2月19日

第7回 地域共生社会推進全国サミット in かが 開催報告

加賀市は、制度・分野ごとの「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会(地域共生社会)の実現を目指すため、地域共生社会推進全国サミットを開催いたしました。

- 1 開催期間 令和7年11月20日(木)、21日(金)
- 2 会場 加賀市文化会館、みやびの宿 加賀百万石
- 3 主催 加賀市
- 4 主管 第7回地域共生社会推進全国サミット in かが実行委員会
- 5 開催内容 有識者等による基調講演、特別講演、分科会、引継ぎ式など
- 6 参加者 2日間延べ1,700人
- 7 参加者の声等 満足度は、良かったととても良かったと合わせて89%であった。ご意見としては、「講演内容や分科会の内容が素晴らしかった」「おもてなしが丁寧で感激した」「お弁当の配布に時間がかかっていた」等



分科会 C テーマ 「 持続可能な地域介護・福祉サービス体制の構築 」

【登壇者】

- 司会者 大島 一博 氏 (筑波大学大学院 教授(協働大学院))
- パネリスト
- ① 大熊 充 氏 (うきはの宝株式会社 代表取締役)
 - ② 黒岩 尚文 氏 (全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会 理事長)
 - ③ 党 一浩 氏 (福岡市認知症フレンドリーセンター センター長)
 - ④ 森田 有紀 氏 (NPO 法人とかの元気村 副理事長)



【概要説明】

- ・75 歳以上のばあちゃんたちが働く会社、うきはの宝株式会社を設立
さらに進む日本の超高齢化社会において、高齢者が元気に健康に働いたり経済活動に関わっていくのは必要不可欠
- ・小規模多機能は今や、単なる介護サービスを超えて、“拠点”としての存在感を強めている
小規模多機能は、当初の「通う」「泊まる」「訪問する」のケアモデルから大きく変化、家族がいても頼れない人がいる。「身寄り」とは何か
- ・“認知症の人から学ぶ”という視点
“当事者から学ぶことは、社会を変える力になる” “共に考える”という姿勢を持ち共に創る姿勢が必要
- ・地域の方がお互いを見守り支え合う拠点
県の委託で整備された「あったかふれあいセンター」 子どもから高齢者まで誰もが気軽に集い必要な支援を受ける
- ・地域包括ケアの縦軸と横軸 医療・介護サービスを縦軸、生活サービス・社会活動を縦軸に